

NAGASAKI



看護連盟だより

2012
新春



あけましておめでとらございます



海きらら

五島の日の出

第23回参議院選の
夜明けじゃー
頑張らんば

目次

| | |
|--------------------------|------------------------------|
| 長崎県看護連盟会長挨拶..... 2 | 第2回ポリナビ会員育成研修会..... 6・7 |
| 長崎県看護連盟名誉会長挨拶..... 3 | 第5回ポリナビワークショップ in くまもと ... 8 |
| 日本看護連盟会長挨拶..... 4 | 震災後7ヵ月を経て思うこと..... 9・10 |
| 高階恵美子参議院議員挨拶..... 4 | 長崎県看護連盟支部役員一覧..... 11 |
| あべ俊子衆議院議員挨拶..... 4 | 施設紹介(みてみて my 病院)..... 12 |
| 平成23年度長崎県看護連盟会議・研修会... 5 | 会員募集、編集後記..... 13 |



長崎県看護連盟 会長 金 澤 きみ代

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

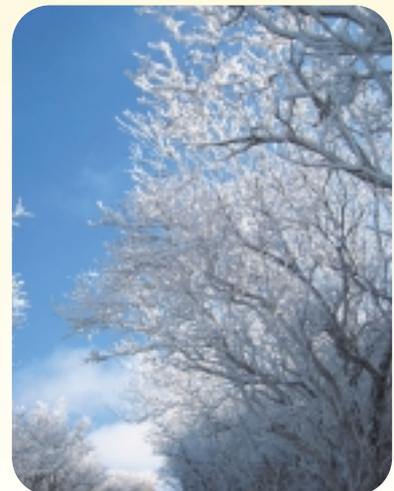
こうしたご祝詞を申し上げますと、皆様方の中には「何を呑気なことを」とお思いの方もいらっしゃるかもしれません。昨年は、3月11日東日本大震災および福島原発問題をはじめ、例年と比較して多くの自然災害に見舞われた様な気がします。まだ復興、復旧の目途さえついてない状況のなか被災された方々には大変申し訳ない気持ちでいっぱいです。まずはこうして無事に新しい年を迎えることができたことを感謝する気持ちだけは大切にしたいと思っております。

看護職の代表高階恵美子議員は昨年素晴らしい活躍をされました。ご家族が東日本大震災の被災者でもあり、災害支援・復興に向けては看護職としての視点で被災者のニーズにあった活動をされ、高く評価されました。また、会員の皆様は拝聴された方もいらっしゃると思いますが、昨年の11月2日の参議院本会議において自民党を代表して総理大臣に質問されました。代表質問は年間せいぜい5・6人しか回ってこないらしく、しかも新人議員は本当に稀だそうです。高階参議院議員の活躍が評価されてこのようなチャンスを得たのだと思います。堂々とした態度で看護職の代表として社会保障の問題、保育所の問題など内容もりっぱでした。私の友人は、たまたまテレビをつけて、偶然にも高階恵美子議員の代表質問で見はまってしまったと言いながら、褒めてくれました。改めて組織代表としての高階参議院議員を誇らしく思いました。

今年は25年度の第23回参議院選挙に向けそろそろ候補予定者の名前が発表されそうです。看護職の代表議員は複数の議員が必要です。高階恵美子議員同様に会員の皆様の力を結集し、上位当選を目指して頑張りましょう！

会員の皆様方には連盟活動に更なるお力添えをお願いいたします。新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞ宜しく願い申し上げます。





ごあいさつ



長崎県看護協会・長崎県看護連盟 名誉会長 山口 ミユキ

謹んで初春のおよろこびを申し上げます。
皆さま各々のお立場で新年をお迎えのことと存じます。

平成23年は全く予期しなかった「東日本大震災」の国難に遭遇し、いまなお、(9カ月)苦難の生活の中でも特に胸痛するのは、家族を亡くした「一人ぼっちの子」、「兄弟だけ残った子供」等が画面に映る。この薄幸な姿には耐えられない思いを、平成24年の「辰」に幸運を託し、私で何ができるか、できることを果たしたいと思う次第であります。

なお、大同団結で果たした役割、高階恵美子先生を看護界の組織代表者として国会で発言できる場を獲得したことは、実に組織力でありお互いに高く評価したいものであります。

辰年に向けて、「備えあれば憂いなし」辰の元気を全身に受けて

- 各自の役割を責任もって果たすこと。云うこと易く、実践活動の乏しさ、過去をふりかえり実現に到達させる活動こそ自己の責任であり、課せられた平成24年度の目標であります。(自己評価)
- いま、名誉会長として、「私でできることは」

地域社会の各種団体等に正しく、かつ広く、看護界を理解していただくために、出前研修を実施しております。その内容の一端として、

演題：「看とりひと筋に走り続けたいま」次世代に引き継ぎたい私の願い

- ・人間らしく生きる(私の子育て等中心)
- ・私の看護とは(看護の芽生え、看護という職業)
- がんの病と闘った病床の日々
- 日本国民としての誇りを
- ・それぞれが自分の職業に対する評価
- ・社会への奉仕、貢献
- ・赤十字の精神
- 祖先を尊敬 祖国を護る
国旗(日の丸) 国歌(君が代)

老いの暮しを豊かに、そして、生涯、終末を
自分らしく 自立(自分のことは自分で)

- ・介護保険の利用に対する考え
- ・死に向かって

国難のいまを人々が健康で強く生き抜く為に、「安全・安心」の看護を届けることこそ、明日の日本国の活性化、輝く日本

以上の内容で、看護という職業を、
私でできること、対象として地域社会の人々を中心に、走り続けております。

後輩の皆さんが、できる役割は何でしょうか。
「辰」の年、できることを誓い、平成25年度に向けて前進しましょう。

益々のご健康とご活躍、併せてお幸せを祈念してごあいさつと致します。

寒さに堪えて水仙の花咲く日に、「雪の季節」東日本大震災の復興を祈りながら



新年のごあいさつ



日本看護連盟 会長 清水 嘉与子

明けましておめでとうございます。
 昨年の東日本大震災は被災地のみならず、日本中に衝撃を与えました。現地の看護師たち、そして全国に広がった支援の輪、みんな素晴らしい活躍をしてくれました。

こんな国の一大事の中で政権交代後3人目の総理大臣が誕生しました。大震災・放射能被害からの復興、沖縄基地問題、TPP問題など野田内閣の目の前には課題山積ですが、まずは総理にしっかりとリーダーシップを発揮していただかなければなりません。政治情勢が不安定な中でも高齢化はどんどん進みます。世界一の長寿国をみんなが享受できるようになるために、看護職の役割を拡大して、その能力を医療機関の中だけでなく在宅においてもしっかりと活用しなければなりません。そうした政策を実現するためにも日本看護連盟は次期参議院選挙に看護の代表を送ります。皆様のご支援を心からお願い申し上げます。



参議院議員 高階 恵美子

長崎県看護連盟の皆様、謹んで初春のお慶びを申し上げます。いつも変わらぬ皆様方のご尽力に対し、改めて衷心より感謝申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、東日本大震災をはじめ、豪雨による被害など甚大な災害に見舞われた年となりました。これらの災害は、多くの悲しみや苦難をもたらしましたが、一方で社会とのつながりの重要性やその価値観、命の大切さを再認識する機会ともなりました。かねてより、看護職は命を守り、社会のつながりの中で人々に寄り添って参りましたが、今このような時代だからこそ、頼れる専門職として、看護職に対する信頼や期待が高まっていることと思います。

どのように政局が不安定な状況にあらうとも、国民の生活は安定したものでなければなりません。今年は、診療報酬・介護報酬の見直し、社会保障と税の一体改革など社会保障制度に関して大きく動く年です。社会保障の担い手として、看護職の皆様が生き生きと活躍していくことができるよう、将来をしっかりと見据えて活動をしてまいります。これからも引き続きご指導ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

会員の皆様、ご家族の皆様のご健勝をご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



衆議院議員 あべ 俊子

長崎県看護連盟の皆様、新年あけましておめでとうございます。いつも温かいご支援を賜り、さらに昨秋のあべ俊子後援会の拡大活動にもご協力をいただき、本当にありがとうございました。

昨年は未曾有の大震災という試練の中、大変な国難の一年となりました。新しい年を迎えるにあたり、この一年、この国が復興への道のりを一歩ずつ着実に歩いていけるよう、国政の場で精一杯努めてまいります決意をあらたにしています。

また昨年は国会では、厚生労働をはじめとした4つの委員会に身を置いて活動いたしました。所属以外の様々な委員会でも質問の機会を多く頂けたことから、会期中は地元岡山との往来も含めて毎週多忙を極めました。この国政活動が国民の皆さんの幸せや看護職の皆さんの現場が良い方に変ったという実感につながっていくことを常に願い、日々取り組んでまいりました。そして今年も変わらず頑張っている所存です。どうか本年も皆様のお声をお聞かせ頂き、ご指導ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

平成23年度長崎県看護連盟会議・研修会

日本看護連盟主催「長崎県看護連盟支部別会議」

日本看護連盟常任幹事 阿津公子氏を迎えて (平成23年10月18日 9:30~17:00)



| | | |
|-------------|------|-----------|
| 10:00~11:00 | 県南地区 | 第1~第4支部 |
| 11:10~12:15 | 県南地区 | 第5~第9支部 |
| 13:30~14:00 | 離島地区 | 下五島・上五島支部 |
| 14:10~14:50 | 県北地区 | 第1~第3支部 |
| 15:00~15:30 | 県央地区 | 第1~第2支部 |
| 15:30~16:30 | 県央地区 | 第3~第6支部 |

次期第23回参議院選挙で高得票を得るため、各支部単位で目標を立て、その根拠、戦略等の指導を受けた。

得票目標

長崎県15000票 (前回のたかがい選8630票) を目指して各支部の活動にご協力をお願いします。

長崎県看護連盟リーダー研修 日本看護連盟・長崎県看護連盟共催

(ながさき看護センター 平成23年10月19日 10:00~16:30)

「リーダーの自主性が促進する」ことをねらいとして、今回施設連絡員および支部役員を対象としての研修が行われた。

【内容】

1. 看護政策過程について

要望書の作成体験。グループワークを通してそれぞれの施設での問題点を出し、解決方法を見出す。

2. 看護連盟の今後の活動

看護連盟のリーダーとして何をどう活動したらいいのか、看護政策の実現のためには看護職が政治に関心を持ち、法律を作り変えようとする盛り上がりが必要であるということを今回の2日間の研修で学んだ。



第2回ポリナビ会員育成研修会

平成23年10月22日(土) 14:00~16:00 場所:長崎県看護協会 長崎会館 5F 研修室



ねらい

「第1回研修での学びから さらに理解を深め、問題が明らかになり解決するための手段を考えられる」

看護連盟研修会『看護と政治』

~なぜ、看護するのに政治が必要か?~

講師:長崎県看護協会 副会長 副島都志子
(長崎市医師会看護専門学校副校長)

私たちが10億の「ながさき看護センター」を建てるのに、政治力はどう反映したのか。

県・市へ建設資金(補助金) 敷地の提供を要求
なぜ要求できたのか

・県下に7000人の協会会員がいる(当時) **数は力!**

看護職が政治力をもつ意味

より良い看護のために、個々の努力は欠かせない。腕を上げ、知恵をつけ、働き方を変える。しかし、プロらしく働ける環境を作るには個人では限界がある。

政策を実現する(法制化、法改正等)が必要。

看護職の代表を国会に送ることは、職能のゴゴではない。なぜなら、看護という仕事は「公益」だから。

プロらしく働ける環境作りは自分自身+政治力!

看護協会と看護連盟は看護政策を実現するという共通目標をもつ。「人物」「政策」「状況」で擁立する。

「社会における位置づけをふさわしくするには~

ナイチンゲールの時代でも、天皇主権でもない現代。つまり、民主主義の日本においては、法律を作ること。そのためには、「数」が必要。 **民主主義 = 数**



連盟活動の実際(日常的に行うこと)

- 1. 連盟会員になる 数が増える 影響力が大きくなる
- 2. 会費を納める 連盟活動資金提供 活動しやすくなる
- 3. 投票に行く(なるべく期日前投票を。当日は周囲への声かけを行う)

賛助会員を集める 会費を納める 連盟活動資金になる 活動しやすくなる
後援会活動をする。 公務員注意!連盟研修資料熟読
選挙運動(特定の選挙で特定の候補者を当選させること)をする。 公務員注意!連盟研修資料熟読

テーマ「看護連盟の活動」

東日本大震災における長崎県看護職の活躍と日本看護連盟の連携

講師:長崎県看護連盟 会長 金澤きみ代



第1回:私たちが何をしたらよいの?

よい看護をしたい!とって看護の道を選んだけど...

ねらい 看護連盟活動についての理解を深め
「良い看護をするために何が問題で
どうすれば良いのか」を考えられる

看護連盟の活動

東日本大震災における長崎県看護職の活躍と日本看護連盟の連携

看護協会と看護連盟のちがいは

長崎県看護連盟は看護協会よりいち早く情報を会員へ流した

看護連盟の役割

看護職の代表を国政に送る

- 1、個人の努力(啓発:自己学習、研修会参加など)
- 2、質の高い看護を妨げている“環境そのもの”を変える(人員配置、労働環境)
- 3、制度の改善
2、3、を改善するにはどうするか?
政治の場で、法律で、制度で変えていくのがベター
そのためには事情が良くわかっている看護職の代表を国政に送り、制度、法律を変えていく。

自分たちの現状をだし
あってます!! 私たち
NEW グループです。



テーマ
働きやすい職場で働きたい

「ポリナビ会員としてどのような研修・学び・協議をしたいですか」の投げかけに対して、各グループごとにテーマわけしてみんなで、真剣に話し合いをしていました。「そうだよね～・あるある!!」など意見が活発でした。
この連盟だよりを読んで、「わたしもこう考える!!」など賛同できることも多々あるのではないのでしょうか。読者の皆さんも一緒に考えてみてはいかがでしょうか?
ピンクの噴出しは、皆さんの生の声です。ポリナビってすごくないですか!?

男性の休憩場所って
以外とないし、肩身
がせまいよね。



テーマ
男性職員が少なく、男性が誇りを持って働ける環境つくりのために参加したい

病棟のグチでおわらせ
しないで!!
国会へつなぐぞ!!



テーマ
処遇改善について

自分で声に出して、
提言していくぞ!!



テーマ
働きやすい職場で働きたい



看護師の数を
増やさねば!!

グチを言うくらいなら、
政治の勉強をするべし!!



テーマ
働きやすい職場で働きたい

子育てと仕事の両立
正直つらいんだよね...
トホホ



テーマ
結婚や子育ての両立できる環境をつくりたい



テーマ
働きやすい職場で働きたい

第3回は
平成24年 2月25日 14:00~16:00
長崎県看護協会 長崎会館にて開催
ねらい「計画」 具体的行動が計画できる



(最終研修となります。会員の皆さんの参加をお待ちしています。)

第5回 ポリナビワークショップ in くまもと

～看護革新・未来をつくるために～

【日時】 2011年10月31日(月) 13:00～16:00

【会場】 ホテル熊本テルサ テルサホール

【主催】 熊本県看護連盟・日本看護連盟

【プログラム】

特別講演 演題「3・11後の日本」

自由民主党衆議院議員 小泉進次郎 先生

熊本県青年部の寸劇&グループワーク



【報告者】 日本海員掖済会長崎病院 小川 正臣

今回、参加した事で二つの事が大きく心に残っている。

一つ目は、このワークショップにおいて、小泉進次郎衆議院議員・たかがい恵美子参議院議員と現役国会議員2人の講演では、一般に報道されていることのない部分の話が聞け、日本のため一生懸命に取り組んでいる人たちがたくさんおり、そういった人たちを私たちは代表として適切に選んでいく必要があること。

二つ目は、若い人たちの可能性と力の素晴らしさであった。実際にこの全国的なワークショップは熊本県看護連盟青年部の方々が企画・実施を行っており、特に寸劇では政治問題を自分たち目線でうまく伝えていこうとするアイデアがたくさん盛り込んであり、面白おかしく仕上げられていてとても楽しめた。それにより政治を身近に感じる事ができた。

最後に、最近特に若い世代への政治への無関心化が進んでいる。実際、自分もその一員であった。しかし、今回参加して感じたことは、『政治は常に自分たちの身近なところにある。』ということであり、自分たちの住みよい未来のためにも、まずは自分が関心を持って選挙に臨んで行こうと思う。



左より 吉田明子 濱口哲平 藤澤 悟 金崎大輔 市田雅俊 小川正臣 吉村副会長 江頭顧問



あぁー忙しい...



震災後7ヵ月を経て思うこと

長崎大学病院
看護部長 田添 京子

3月11日から7ヵ月以上が経過し、被災地の皆様は、被災後初めての厳しい冬を迎えようとしておられることと思います。

長崎県看護連盟では、派遣活動を行った看護師の手記を「NAGASAKI 看護連盟だより」に2回に亘り掲載して頂き、有難う御座いました。手記にはそれぞれの思いが率直な言葉で綴られ、スタッフの深い思いやジレンマを感じ取ることができました。思いをきちんと形にして頂いたこと、そして会員の皆様に読んで頂いたことに対し、スタッフと共に心より感謝申し上げます。

長崎大学病院は、現在までにのべ28名の看護師を派遣し、現在も福島県へ緊急被ばく医療チームの一員として2名を交替で毎月派遣しています。この2名の看護師は勤務の傍ら、「長崎大学医歯薬総合研究科保健学専攻修士課程放射線専門看護師養成コース」に在学しており、専門的知識を持った看護師として、発災直後から福島県立医科大学病院の医療職を助け、大きな信頼を得て活動を続けております。また、10月末からは、福島第一原発の作業員や搬送患者への医療支援の要請に応え、「是非行って、自分の目で確かめ、看護職にできることを見極め、今後に繋ぎたい」との本人の強い意志を確認し、派遣しております。そこには専門職として人間としての使命感、そして自分でなければやれないという責任感など多くの気持ちが垣間見られ、今後も病院全体でしっかり支援していかなければと思っています。派遣中は病院長や私とのメールのやりとりで、励まされたり励まされたりの日です。

7月5日に派遣看護師の集いを開き、病院長、事務部長など皆で一緒に沢山語り合い、少しでも思いを共有することができました。スタッフ同士は夜も更けるまで気持ちを語り合ったとのことでした。派遣直後は、帰還した看護師がわずか1週間で帰ってくる、平穏な場所へ戻れる環境があることに罪悪感にも似た感情を覚え、もっと自分にできることはないだろうかと私に訴えてきた看護師もおりました。「私たちの前には、今私たちが必要としている患者さんが沢山おられる、今はしっかりと目の前の患者さんに向き合い、安心して療養してもらうことが私たちにできることだと思う」と話し、看護師長にもそのことを伝え、精神的フォローをお願いしました。

被災から1ヶ月過ぎた頃、長崎市立市民病院の一瀬久美子看護部長へ福島県南相馬市大町病院の藤原珠世看護部長さんから手紙が届き、私へ相談がありました。90人いた看護師で被災後残ったのは17人、非常に困っている、長崎大学病院は福島へ派遣しているので相談にのってもらえないか、との逼迫した内容でした。詳細がわからず、直接お聞きしてみようと藤原看護部長さんへ思い切って電話してみました。看護部長さんは、大町病院の患者さんを他施設へ搬送中で、救急車の中でした。短期間でも働いてくれる人を望んでおられ、残念ながらご期待に添えるお答えができなかったにも関わらず、「長崎大学病院の看護部長さんが電話をして下さった、それだけで私はこれから頑張っていけます」と泣いておられ、私も涙ながらに電話を終えました。『原発350km圏内、放射線で閉ざされた町の苦難』と当院の看護師も手記に書いていますが、住民の皆さんの孤立感、それを必死で支える医療職の孤立感は計り知れないものがあることを実感した瞬間でした。そして、8月末、藤原看護部長さんより「大町病院がテレビ報道されます。自分も出るのでは是非田添部長にも見てほしい」と一瀬看護部長を通じて連絡がありました。その夜私はテレビに釘付けでした。藤原看護部長さんの初めて拝見する顔や、看護部長としての想像を絶するご苦労を目の当たりにし、涙が止まりませんでした。心を残しながら病院を辞めて行った看護師さん、残った看護師さんそれぞれの葛藤、辞めた看護師さんにひたすら手紙を書き続けた看護部長さん、そして戻って来てくれた看護師さん…。私は医療職の使命の厳しさや心の深さをしっかりと心に刻み、翌日スタッフにそのことを伝えました。私は平成24年3月で退職しますが、自分の時間ができたら是非藤原看護部長さんに会いに行こう、大町病院の看護師さん達にも会いに行きたいと思っています。

被災地が自ら被災地見学ツアーを計画しているとも聞きます。そういうものに参加するのもお役に立てることですし、被災地を知り応援するきっかけになるかもしれません。

週刊医学会新聞9月26日発刊分に井部俊子聖路加看護大学長が書かれている「看護のアジェンダ」-第81回遠野で聞いた物語-に強い衝撃を受けました。井部先生が遠野病院の総看護師長鈴木榮子さんから聞き取った被災時の物語です。紙面の都合上ご紹介できませんが、是非ご覧になって下さい。私たちは想像するだけで殆どのことを何もわかっていないと痛感しました。だからこそ、いつも気持ちを向かわせていることが大事だと思います。私たちは日々の報道で被災地の様子を思い浮かべながら暮らす毎日ですが、時間が経つにつれ、勝手に自分の中で風化させてしまわないように努めて情報を得るようにしたいと思っています。

柴田トヨさんの詩が被災地に勇気を与えていると聞きます。私たちは柴田さんのように、またなでしこジャパンのように勇気を与えることはできないかもしれないけれど、見たり聞いたり感じたり、関心を寄せ続けることはできます。

今回特に感じたことがあります。明日はまたやって来るとよく言うけれど、明日は誰にも約束されていない、ある日突然別れがやってくることもある、という震災に寄せた詩がラジオで流れました。だからこそ今を大切に、日々のちょっとしたことを大事に感じられる感性を育て、今日を精一杯生き抜くことが大事だと感じました。そうすると家族や同僚への思いが違ったものになるような気がします。看護も、しっかりと対象に気持ちを向かわせ、人が人を見ることをさらに大切にできると思います。

私たちは今自分たちにできることをしっかりとやっていくことが大事です。長崎大学病院は、節電方針を明文化し、省エネに取り組んでいます。病院長が省エネパトロール隊を率い、方針通りに実施されているかのチェックを定期的に行っています。事務棟の蛍光灯はそれぞれに紐を付け、部屋全体ではなく部分的に点灯できるように工夫し、私も5つある中の頭上の1つだけを点灯して執務していますが、これで充分です。これまでいかに意識が低かったかを反省させられます。地道な取り組みによりエネルギー消費量も減り、CO₂排出量は前年度比15%削減という成果が出ております。

看護職の責務は社会の中でますます大きなものになっていきますが、永久ライセンスを持つ私たちは自助努力で資格を維持していく義務があります。今回専門的に学ぶ看護師がいて、また自ら志願してくれる看護師が沢山いて長崎大学病院は支援に少しでも貢献することができたことを有り難く思っています。

東北は頑張っています。私たちも日々の役割を大切にして頑張ることで、社会に貢献していければと思います。

ひと雨1度の例えのように、日々寒さが増してまいりました。東北の医療職の皆様、お元気でご活躍されますことを心よりお祈り申し上げます。



福島県立医科大学病院で活動中の吉田浩二看護師



長崎県看護連盟 支部役員一覧

| 地区 | 支部 | 支部長 | 幹事長 | 幹事 | | | |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 県南地区 | 第1支部 | 浦瀬 妙子 | 山口みどり | 松本美由喜 | 高濱千由紀 | | |
| | 第2支部 | 永松 順子 | 神辺 みち | 岡村 嘉子 | 田栗 寛子 | | |
| | 第3支部 | 中村 理恵 | 石垣 俊子 | 松尾 清美 | 前田 睦美 | | |
| | 第4支部 | 下田 清子 | 内野かほる | 長尾 鈴子 | 松本 光子 | | |
| | 第5支部 | 片山 清美 | 高田寿美子 | 阿野 洋子 | 松山 明美 | | |
| | 第6支部 | 坂田 幸利 | 深堀 立子 | 岩田 直美 | 西川眞由美 | | |
| | 第7支部 | 植松 末広 | 近藤 弘美 | 崎山 龍子 | 氏原 恭子 | | |
| | 第8支部 | 山添由紀子 | 藤井三千子 | 島村 洋子 | 津上 弘一 | | |
| | 第9支部 | 本山 清子 | 福江まさ江 | 辻 ミサ子 | 千馬ミキヨ | | |
| 県央地区 | 第1支部 | 伊達 信子 | 中島 禮子 | 貴田 英司 | 浅田まつえ | 菅藤 文子 | 川井なほこ |
| | 第2支部 | 松尾 明子 | 松尾 愛子 | 本多 葵 | 崎山 豊子 | | |
| | 第3支部 | 平野富美子 | 釜崎 弘美 | 村川 由紀 | 金崎 大輔 | | |
| | 第4支部 | 福田 妙子 | 松尾由紀子 | 松尾 美香 | 中野真由美 | | |
| | 第5支部 | 今川 洋子 | 木下まさみ | 石丸 紀子 | 高井 夕子 | | |
| | 第6支部 | 森 良子 | 松山 育枝 | 佐竹 康子 | 石丸 貴敏 | | |
| 県北地区 | 第1支部 | 薬王寺和子 | 村上 幸江 | 富永 信世 | 村井 良子 | | |
| | 第2支部 | 福島美津子 | 山下とも子 | 浦辺佳世子 | 山中由貴子 | 坂口 広美 | |
| | 第3支部 | 横山紀美子 | 横山加代子 | 井元 陽子 | | | |
| 離島地区 | 下五島支部 | 坂下 照代 | 矢倉 礼子 | 宮川 和子 | 赤窄かずみ | 宮本紀美子 | 塩塚 和子 |
| | 上五島支部 | 梁瀬マスエ | 川端 逸子 | 田中 啓子 | 本村ひづる | 松本 範子 | |

前号に一部記載ミスがありました。訂正してお詫び申し上げます。



みてみてmy病院

第1回 和仁会病院

ホームページ <http://wajinkai.jp>



『和仁会病院』って、 どうして黄色いユニホームなの？

.....それは、元気になる色だからです！

当院は植木の里として有名な古賀地区の緑豊かな丘の上にあり、東長崎地区の中核的病院を目指してまいりました。病床は212床で、急性期病棟では、内科、整形外科、泌尿器科分野を中心とした医療を提供し、回復期リハビリテーション病棟では脳神経外科と整形外科分野における回復期の患者様の在宅復帰、職場復帰に取り組んでいます。また、人工透析治療及びその他の慢性疾患の療養病棟があり、安心して療養できる環境を整えています。更に地域のニーズにより在宅医療や介護保険分野も拡大してまいりました。訪問診療や訪問看護に加え訪問リハビリテーションも増加し、デイケア・デイサービスにより地域との関わりが更に深まり、地域に根ざした医療を展開しています。

本年度には外来患者数の増加に伴い、外来部門を増改築し、スタッフも気分をリフレッシュして患者様のサービスに努めています。皆様ぜひ一度和仁会病院においでください。元気になる黄色いユニホームの看護師が明るい笑顔で迎えてくれることでしょう。



特に地域の皆様の健康増進に関する活動を支援する取り組みとして、頭の体操教室や転倒予防教室などに会場を提供し、地域の自治会の健康教室などへ講師やスタッフを派遣するなど地域へも積極的に出かけて行き、また病院の夏祭りや敬老会では地域の皆様に来ていただき交流を図っています。そして、このような取り組みにより具合が悪い時

には、いつでも安心して来て頂けるような信頼関係を築いてきました。

一方、長崎大学や地域の医療機関と連携し、医療サービスの質の向上を目指すと共に、介護・福祉分野の皆様と手をとりあって、より暮らしやすい健康な地域づくりに貢献したいと願っています。

今後このコーナーをシリーズ化します!!

my 病院・施設を紹介してみませんか?!

「これが自慢！うちならでは！がんばってます!!」なんでも OK ですよ。

応募方法は [こちら](mailto:hyk.renmei-nagasaki@shore.ocn.ne.jp) または Fax (0957) 49 - 8066

たくさんの応募
お待ちしております。



会 員 募 集



あなたも長崎県看護連盟に！
職場の声を国政に反映させましょう！
看護政策実現には
看護連盟の組織強化が必要です。



ながさき看護センター

編集後記

あけましておめでとうございます。

昨年は東日本大震災に対し多くの施設から支援活動の報告をいただきました。

今年が良い年であることを願っています。

今号は連盟活動をより理解し、政治に関心が持てる取り組みの1つとしてポリナビ研修を特集しました。

今後とも会員が興味を持てる連盟だよりを目指してゆきたいと思います。

編集担当（伊達木、村井、森田、相良、松崎）

